



一般書 身近なもので作るハンドメイドレク

寺西 恵里子 著 (朝日新聞出版)

身近なものを蘇らせるリサイクルには、頭を使ったり、手を使ったりとボケないための要素がたくさん。広告チラシで作る花桶、牛乳パックで作るチエストなど、リサイクル手芸を中心にハンドメイドレクを紹介します。



一般書 30センチの冒険

三崎 聖記 著 (文藝春秋)

バスに乗って迷い込んだ異世界の人々は奇妙な災害に苦しんでいた。彼らを救うため、男はこの世界にあるはずのない「30センチのものさし」を手に入れようとする。



児童書 せん

S. J. R. 作 (岩波書店)

しろい紙のうえを走るえんぴつ。その先から一本のせんが生まれ、スケートぐつをはいた少女が氷のうえへと軽やかにすべりだす…。

おはなし会

町内2つのボランティアグループによる楽しいおはなし会を開催します。

12/15 ゆめっ子のおはなし会

と き 12月15日(土) 午後1時30分から
と ころ 社会教育センター 幼児遊戯室
対 象 小学校低学年、幼児

12/13 おひさまのおはなし会

と き 12月13日(木) 午前10時30分から
と ころ 総合福祉センター しいの木
対 象 乳幼児

問合せ いずれも、社会教育センター図書室 ☎28・5449

豊山俳句クラブ

青山克己 選

境内に小さな秋の転がれり 坪井昭子

朝寒や湯のみ茶碗の藍深む 杉浦みどり

赤蜻蛉夕日の色に溶けて消ゆ 岡島 齋

稲雀群れて大きな波打ちぬ 坪井径子

柴又の町の空です赤とんぼ 青山とも子

人恋し夕暮れ時のすすきかな 水野眞弓

豊山歌壇

水野笑子 選

連続の台風は無事に通過して 中澤芳子

一人居の食おろそかになりたるを 水谷弘子

平成の最後の夏に酷暑とふ 水野勝代

青紫蘇をレースに仕立て 蠅螂の 小さきは飛びて元気の印 山田 米

白き花群がり咲けるドクダミの 狭庭の石の蔭に匂へる 渡辺トヨ子

谷崎 琴

落ち葉道雨は静かに染みこみし

行き交ひし人も宿場も秋じたく 黒澤裕子

この先はまつすぐ秋へつづく道 高木須磨子

新涼やジャケットに腕通させる 山下敬太

秋桜色鉛筆は十二色 田村多喜子

廃屋をつつんであまる藪からし 石黒貴代子

秋を抱くやうにまあるく膝を抱き 青山克己

荒川昌枝

夜の帳下りれば庭に夕涼み そんな日もありしと孫に語りぬ

文献を読みたる通りの過去に有り 暑い暑いと繰り返すのみ 安藤定岳

老いゆけば確実に時は早く過ぐ 体力・頭脳に時は惜しまず 一柳千鶴子

方言の「夕立さま」の言ひ回し 何故か知らぬがをかしさ覚ゆ 井上とよほ

永遠に変わぬものは父母の愛 光となりて吾を導く 木村和子

編集後記

約二十年前の学生時代、小論文のテストに「共生」という言葉を使った。返ってきた講師のコメントは「共生」という言葉はあまり使われていない言葉なので不適」といったものだった。今年、米朝首脳会談やASEANの首脳会議が開催されてニュースになったシンガポール。国民の約四割は外国人という多文化共生国家である。一九六五年にマレーシアから独立後、著しい経済発展を遂げた。華やかに見える近代都市も、独立に至る理由は民族間の抗争である。マレー系住民と中華系住民との間で死傷者も生じる暴動が発生、マレーシアから追放される形で独立した。このような経緯もあり、民族融和は重要な政治課題となっている。政府は、民族・言語・宗教を超えて様々な人々が絆を深められるように、文化・スポーツなどのイベントを開催する。本町には、約四百五十人の外国人が暮らしている。全国的な労働力不足も背景に、今後増えていく可能性がある。町では、来月、異文化に接する機会として「多文化共生交流会」を開催する。今では「共生」という言葉はよく目にするようになった。「共生社会」を築くことができるかは、これからが本番だ。

トピック

町政あんない

特集

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ